|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目 | 診療に伴う技術 | 単位数 | １単位 | 時間数 | 30時間（内15時間） | |
| 担 当 者 | 諏訪　加代子  (臨床経験23年) | 学　年 | １学年 | 開講年次 | ２学期 | |
| 目的 | 事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。 | | | | | |
| 科目目標 | 1. 事例患者にとっての科学的根拠（知識）と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。 2. 事例患者の特性や状況に応じた技術（安全・安楽・倫理的配慮）が実施できる。 | | | | | |
| 回数 | 授業計画・授業内容 | | | | | 方法 |
| 1回  2回  3回  4回  5回  6回  7回  8回 | １．診療・検査・処置の介助技術と症状・生体機能管理技術  １）診察の介助、症状・生体機能管理技術の基礎知識  ２）検体検査（尿検査・便検査・喀痰検査）  ２．症状・生体機能管理技術  １）血液検査（静脈血採血・血糖測定）  ３．呼吸・循環を整える技術  　　１）酸素吸入療法（酸素ボンベの操作・管理含む）  ２）排痰ケア  　（１） 体位ドレナージ　　　（２） 咳嗽介助  　（３） 吸引（口腔・鼻腔・気管内吸引）  　（４） ネブライザーを用いた気道内加湿  ４．呼吸・循環を整える技術と診察・検査・処置の介助技術  １）持続吸引（胸腔ドレナージ）  　　２）上部消化管造影・上部消化管内視鏡検査、下部消化管  内視鏡検査  ５．診察・検査・処置の介助技術  　　１）穿刺（胸腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺）  ６．終了試験（45分） | | | | | 講義・演習  演習  演習  講義・演習  講義 |
| 准看時  授業内容 | 基礎看護技術 | | | | | |
| 教科書  参考書 | 教科書：『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ』 医学書院  参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 | | | | | |
| 評価方法 | 出席状況、筆記試験、学習成果物 | | | | | |
| 関連科目 | 解剖生理学、病態生理・病理学、生化学 | | | | | |
| 備考 | 演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。 | | | | | |